ＩＳＳＮ　1348－2300

第54号　２０２６．８．１

民話

── 東北文教大学民話研究センター ──

発行　東北文教大学
民話研究センター

〒990-2316
山形市片谷地515
東北文教大学附属図書館
TEL 023-688-7544
メール library@t-bunkyo.ac.jp

山形の世間話

東北文教大学民話研究センター長　佐藤　晃

民話に含まれるもののなかで昔話、伝説に比して世間話は存在感が薄いかもしれません。そもそも世間話とはどういうものを指していうのかもはっきりしないというのが大方の印象ではないでしょうか？私自身も世間話とはこうだと今一つ言い切れないもどかしさを感じています。

ところで山形県における世間話を積極的に取り上げ、その意義を指摘していたのは滝口国也氏でした。滝口氏の編著『東根の昔話集　第二編』（昭和五一年［一九七六］）には「東根の現代民話」として「民主主義」「無計画な殿様」「交通取り締り」「現代の地獄極楽」「関山峠の幽霊」の五話が収録されています。

松谷みよ子氏の現代民話考が日本民話の会の『民話の手帖』に連載され『現代民話考』全十二巻（立風書房）にまとめられたのが昭和六〇年（一九八五）～平成八年（一九九六）ですから、もしかすると先の「東根の現代民話」は松谷氏の「現代民話」に触発されてのものかもしれません。ちなみに松谷氏の『現代民話考』第三巻（昭和六〇年［一九八五］）には滝口氏の「関山峠の幽霊」が収録されています。

その後、滝口氏は『北村山の民話（世間話編三）』を平成一〇年（一九九八）に刊行されます。『北村山地方の民話』と銘打ったものの第三集に世間話だけをまとめた一冊を刊行されたのは特筆すべきことだと思います。折しもブルンヴァン『消えるヒッチハイカー』等のアメリカの都市伝説の紹介があり、常光徹氏『学校の怪談』（平成五年［一九九三］）が話題となり、『ピアスの白い糸』（平成六年［一九九四］）をはじめとする日本の現代伝説シリーズが刊行された時期でした。

そのようななかで滝口氏の「現代民話／世間話」は東根に伝え広まっていた話を集めたものとして今も貴重なものといえます。右の都市伝説ブームのなかで注目されたのは、現代版世間話とも言える都市伝説が持つ、都市を中心とする社会生活への不安や憧れなどの揺れ動く心理と語られる話のストーリー化に見られる昔話の影響などでした。それはしばしば、伝えられた地域の個別性から離れたところで論じられがちだったように思います。

私はかつて滝口氏の「関山峠の幽霊」を取り上げて拙い分析を試みたことがありました。（『民話』一〇号、平成十六年［二〇〇四］六月）ここであらためて「関山峠の幽霊」の概要を載せておきます。

まだ新国道ができない或る雨の降る夜、トラックの運転手が関山峠にさしかかると、ふいに子連れの女の人影が現れ、傘もささずに立ちすくんでいた。運転手は車を止め「仙台までだがよかったら、乗んな」と声をかけた。女は何度も頭を下げ子どもを抱いて後ろに乗り込んだ。女はじっとうつむいて、子どもも声一つ立てない。ようやく作並温泉まで来て「仙台はもう少しだぜ」と声をかけ、ひょいと後ろを見たが、誰もおらん。女の座っていたあとはぐっしょり濡れていた。運転手はトラックを飛び出し近くの旅館へころがりこんだ。他の多くの運転手もこうした経験をした。これは数年前、この峠で仙台の或る一家が山形に来る時に、数十メートルの谷に車ごと転落し、全員死亡した事故があった。きっとその霊に違いないと供養塔を建て、霊を弔った。それから幽霊は出てこなくなり運転手たちをほっとさせたそうだ。

旧関山トンネルを通るトラックに雨の夜、母子を乗せたところ消えてしまったという話で、よく知られた「消えた乗客」と同じ話で全国的に流布しているものですが、東根の話にはほかの地域にない要素が見られるという点、とりわけ消える幽霊が「子連れの女」となっていることに私は興味を持ちました。

私の推測では、この話は昭和四三年（一九六八）に新関山トンネルが開通したことがきっかけで旧関山トンネルにまつわる過去の事故（工事中の爆発事故により多数の犠牲者が出たがそのなかに妊娠中の女性が含まれていた）などの記憶が想起され、それと全国的に知られていた「消えた乗客」が融合して形成された東根版「消えた乗客」だと思います。「母子の幽霊」にはおそらく明治の爆発事故の犠牲者に含まれていた妊娠中の女性工員の記憶が反映しているものと思います。先述の話の内容では、転落事故で亡くなった一家の霊という扱いになっていますが、松谷みよ子氏の『現代民話考』に挙げられている同じ話（宮城県在住のタクシー運転手の語り）では爆発事故のことに触れているものがあり、やはりこの事故の記憶は強く残っていたものと推測されます。

ちなみに既にネット上にも紹介されている（たとえば「新・県民ケンちゃん～山形県民荒井による地元山形圏探索企画」）ように関山トンネルの山形県側（写真①②）と宮城県側（写真③）に爆発事故の殉難碑が今も立っていますが、このうちの山形県側の大滝不動にある殉難碑には犠牲者の名簿のなかに「胎児」（写真②）と記されていることが確認できます。